

事例5

< 事例概要 >

出血

- ① 60 歳代、大腸癌術後、急性腎不全の患者。
- ② 血液透析導入のため、血液浄化用カテーテルを留置予定。
- ③ BMI 22.4 kg/m<sup>2</sup>。脱水あり。右内頸静脈は虚脱気味。抗血栓薬の使用は無。
- ④ 右内頸静脈よりリアルタイム超音波ガイド下で穿刺。ダイレーターを約12 cm挿入。カテーテルを挿入後、逆血なく空気を吸引したため、カテーテルを10 cm引き抜き、逆血を確認。頸部の腫脹ありカテーテルを抜去、直後に心肺停止。右胸腔ドレーンを挿入し、大量の血液を排液した。開胸止血術、経皮的心肺補助装置を装着したが、抜去から約3 時間半後に死亡。
- ⑤ 死因は、腕頭動脈もしくは右鎖骨下動脈損傷による胸腔内出血。死亡時画像診断（Ai）無、解剖無。